



南インドのカレー KUZHAMBU (コランブ)。調理済みなので、ライスと混ぜるだけで本場のカレーライスが食べられます。

11月入りました。今月のあじけん通信は、先月末に総勢 39 名で来日したインド実習生の皆さんを特集します。これまでもインド人実習生の受け入れをしてきましたが、これほどまとまった人数での来日は稀です。奇しくも今年 2023 年は、インドが中国を抜いて世界の人口トップに躍り出た年。世界中で 6 人に 1 人がインド人と言われる程の人口を誇るインド。これから日本の社会においても、大いに存在感を増してくることでしょう。

あじけんスコープ Vol.125 ～インド人のランチタイム拝見！～

今月はインド人実習生の昼食の様子を覗いてみました。この日皆さんが食べていたのは紙面の左上に写真入で紹介されている容器に入った即席カレー。毎日、毎食カレーを食べるインドの人にとって、この即席カレーは強い味方の様で、特に忙しい 1 人暮らしのビジネスマンの朝食や、お昼のお弁当用に重宝されているそうです。この日のカレーは、細かく刻んだ野菜と複数の香辛料を混ぜ合わせた物を油と酢で味を整えたベジタブルカレー。勧められて試食させてもらったところ思ったよりも辛みは抑えられており、ごはんによく合うインド版「食べるラー油」のようで、癖になりそうな味でした。



お弁当箱に入ったライスに持参した即席カレーをかけて、右手でしっかり混ぜて食べるのがインド流

今月の実習生

今月は、現在当校に在籍中のインド人実習生の皆さんを紹介します。総勢 39 名で来日した皆さんは、2 人のリーダー MANIKANDAN (マニ) さんと SHEIK ABDULLAH (セック) さんを中心にとっても纏まりがあり、授業にも熱心に取り組んでいます。日本語の基礎もよく身に付いており、日本語コミュニケーションにも積極的なので、総じて会話が楽しく、これからの日本での活躍が楽しみな若者達です。



マニさん

セックさん

皆様、こんにちは、私たちは南インド人です。まだまだ実習が始まりました。初めて日本に来たときは、まるで違う世界に入ったおぼろげな気分でした。日本の賑やかな道やとても親切な日本人が私たちに私たちを魅了しました。小城市に来たとき、かんぱきな秩序と人々の礼儀正しさにおどろきました。日本の店員は非常に礼儀正しく敬意を持っていました。彼らはこきやくに対して おじきをして あいさし、敬意を表すために敬語を使うことがよくあります。いつか私たちが日本人のように生活したいです。どうぞ よろしくおねがいいたします。

あじけん流日本語授業

～インド人単独クラスの授業～

今月のあじけん流日本語授業は、インド人単独クラスで行った授業をご紹介します。インドからの実習生は当校にとってもまだ珍しい存在です。講師の勉強のためにも、日本語の学習を兼ね、実習生にインドのことを教えてもらいました。

まず、来日後の休みの日や昼休みに行った場所について聞き取りをします（写真①）。「駅」「コンビニ」「ケーキ店」「スーパー」「マクドナルド」「KFC」「ドラッグストア」「公園」などたくさんの場所が出てきました。その後、行った場所ごとにグループを作り、その場所が日本とインドはどう違うのか考えて、話し合い、発表します（写真②、③、④）。母国での日本語学習がしっかりとされているので、楽しい発表となりました。

発表の中からいくつか面白かった発表をご紹介します。1つ目は「公園」です。「日本の公園は、お年寄りが多いですが、インドの公園は若い恋人同士や、子どもが多いです。そして日本の公園は静かです。」というものがありました。これについては、多くの実習生が頷いていました。2つ目は「コンビニ」です。「インドにはコンビニはありません。日本のコンビニは便利です。」3つ目は、「スーパー」。「日本のスーパーはお金を機械に払います。インドは店員がたくさんいますから、それはありません。」などです。

東南アジアの実習生とも文化圏が違うインド人実習生、私たち講師にも新しい発見があり、とても楽しい授業となりました。実習生の母国のこと、生活を知ることが私たちにとっても非常に重要なことだと考えています。これからも実習生から学ぶ姿勢を忘れず、入国後講習に邁進したいと思っております。



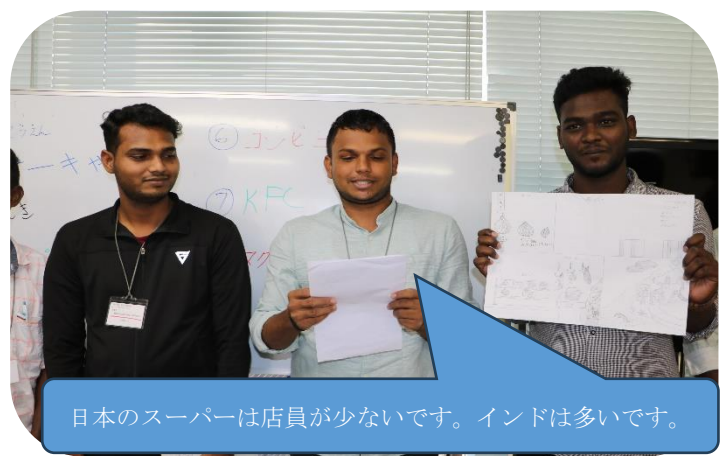
写真1：日本でマクドナルドに行ったことのある実習生



写真2：グループに分かれて発表内容を作成



写真3：これは、インドのドラッグストアです



日本のスーパーは店員が少ないです。インドは多いです。

写真4：スーパーの違いを発表しました

※ 当校ホームページ <http://www.ajiken.jp/> から「あじけん通信」バックナンバーもご覧になれます。